

住民主体のまちづくり

No.25 2015. 12

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 認知症徘徊模擬訓練の実施

快晴に恵まれ、米子市の車尾地区防災安全推進協議会主催の「認知症徘徊模擬訓練」が10月18日（日）午後、地区の自治連合会、消防団等関係団体や個人でなんと100名以上の住民で行われました。野坂市長の激励をいただきました。



また、市役所、地域包括支援センター、米子警察署、YMCA医療福祉専門学校生の協力も得て、大規模なものになりました。この訓練は、車尾地域づくりの一環として取り組んだものです。



徘徊役を住民3名設定し、車尾地内3か所に搜索範囲を設けてそれぞれに搜索班（3～5人編成）を振り分けて合計22班の展開が順調にできました。また、消防団は日野川の河川敷で人が倒れている想定で搜索活動を行いました。3名の搜索は、30分前後で発見できましたが、日



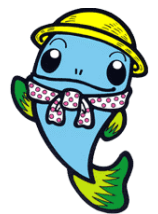
野川は、50分くらいで発見されました。

■ 米川清掃の実施

去る10月25日（日）午前9時から、環境美化の取り組みとして米川清掃を行いました。

快晴に恵まれ参加した車尾の住民が米川沿いの観音寺新町1丁目緑地公園に集合して、上流に進む班と下流に進む班に分かれて清掃活動に汗を流しました。この活動は車尾地区が米川最上流にあり、農作物だけでなく生活に密着した「地域の水」として防火、景観形成、親水、生態系や水質保全等の役割をよりよく果たすために行うものであり地区の課題でもある環境美化の取り組みとして、90人以上が参加されました。

参加者は、水がなくなった川に入りそれぞれ不燃物等を、県土整備部維持管理課から支給された200余の麻袋に入れ、土手に集積していきました。参加者からは「弓浜半島の用水として車尾地内に源流があり誇りに思う」「管理者が、施設の維持管理に腐心されているのがよく分かった」などの声が上がっていました。



自分たちのまちは 自分たちの力で